

被服構成（洋裁指導）に於ける 衿のパターンに関する一考察

大 橋 登史子 三 田 利 子

Toshiko Ōhashi

Toshiko Mita

I は じ め に

衿のデザインの種類は多く、全部を簡単に総括指導するのは困難であり、衿のすべてを説明するのは容易ではない。衿が雑多な印象をあたえる大きな原因は、その呼び名である。外来の名と日本名があったり、一つの衿が、二通りにも三通りにも呼ばれる例がある。とくに日本名では、なぜそう呼ばれるのかははっきりせず、外国語でもないような例もある。こうして衿は、繁雑な種類をかかえているように見えるが、構造上から考えるとすべての衿は、3つのグループに類別することができる。（図1 (1)～(3)）

(1) スタンダップ・カラー

(2) フラット・フィッティ
ング・カラー

(3) ロールド・カラー

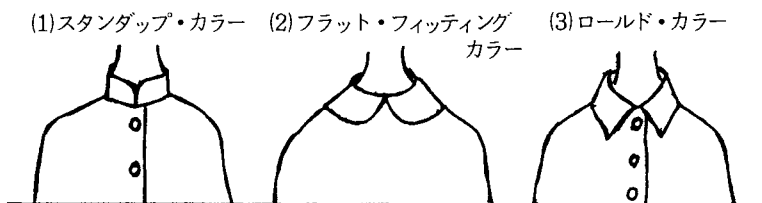


図1 衿 の 種 類

(1) スタンダップ・カラーは文字通り立っている衿で、日本名は立衿、スタンド・カラーと呼んできたものである。ミリタリー、オフィサーズ、マンダリン、チャイニーズ、マオなどのカラー、さらにタートルネックもこの一つと考えられる。

(2) フラット・フィッティング・カラーは略してフラット・カラーと呼ばれる。衿腰がなく、身頃にぴったりついた衿の総称で、形により、セラー・カラー、ピーターパン・カラー、バーサ、スクエア・バーサなどがある。（図2 ①～④）

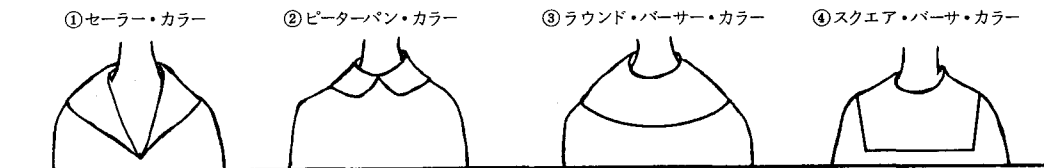


図2 フラット・フィッティング・カラーの種類

(3) ロールド・カラーは、フラット・フィッティング・カラーより衿腰が高く、折り返っている衿である。

パターンを開いた場合の形状から三通りに考えることができる。(図3)

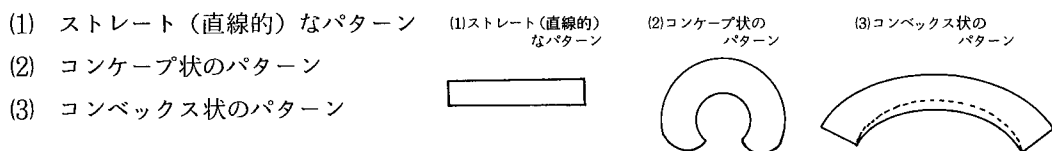


図3 衿のパターンを開いた形

以上あげた名称のほか形態や、機能の特殊な条件によって使ってきた、いくつかの呼び名がある。(図4 (1)~(3))

- (1) ノッチド・カラー
(2) セミ・ピークド・カラー
(3) ピークド・カラー



図4 ノッチドカラーの種類

以上は衿のパターンを種類によって分類整理してみたが、今回はスタンダップ・カラー、フラット・フィッティング・カラー、ロールド・カラーのパターンについてのみ、立体裁断をし、それからヒントを得て、肩の重ね方による衿の変化等々を、検討、考察したのでその一部を報告する。

II 実 習

1 今回の実習に使用したダミーは、第1回、第2回に使用したニュー・アミーカ・ミス9号サイズである。(表1)

このダミーは、JIS規格成人女子の寸法を基本とし、それにゆるみ量として、バスト5cm, ウェスト0cm, ヒップ3cmがすでに入っている。

2 実験用布はタオル (未晒木綿) を、たて、よこの布目に正しくアイロンをかけ、寸法通りに直角定規を使い、チャコペーパーをはさみ、ルレットでしるしをつけた。

スタンダップ・カラーには、接着芯パネロン (ゴールドF105) を使用してしっかりさせた。

3 衿のパターンの略稱

N・P=ネックポイント

F・N=前えりつけ寸法 (オール) の $\frac{1}{2}$

B・N=後えりつけ寸法 (オール) の $\frac{1}{2}$

4 立体裁断法とその衿づくり

(1) トワルをあら裁ちのまま人台にあてて裁断するシステムである。

人台の衿ぐり線に、ピンですぐ止めつけるのではなく、1枚のタオルを、自らの視覚と指先で形づけながら、求める線を最も早く出すことを最終目的とし、衿つけ線も、衿腰線も、衿外回り線も、すべて

表1 ミス (ニュー・アミーカ) 寸法表

号数	JIS規格 呼びサイズ	ダ ミ ー 寸 法			
		バスト	ウェスト	ヒップ	背 丈
5	W153-76	81	58	89	37.5
7	W154-79	84	60	91	38.0
9	W155-82	87	62	93	38.5
11	W156-85	90	64	95	39.0
13	W157-88	93	66	97	39.5
15	W158-91	96	68	99	40.0
ゆるみ量		5	0	3	

未知数である。決定している線は、身頃の衿つけ線だけである。それを第1前提に、身頃衿つけ線にトワルを形づけながら裁断してゆくことになるが、しかしデザインにより、衿の形があらかじめ察知できる場合は、あらかじめ段階で形づけてよく、また衿つけ線も、衿をつけてみて適当でない場合には、勿論変更しなければならないことは当然である。

(2) 衿づくり

身頃のデザイン線が完成したら、衿つけ縫い目線を入れる。その方法は人体のN・Pを求める衿つけ止まりとの関連性をよく見定めて、衿ぐり線と、頸の周囲の順に点検実施する。不自然な場合は、チョーク、マジックで修正し、理想と思われる衿ぐり線を、身頃のトワルに記入しておく。衿つけ線がはっきりすれば、衿がつけ易く検討に便利でもある。

衿の基本線は、「衿つけ線」「衿腰線」「衿外まわり線」の3本になるが、衿をつくるプロセスでは、この順序は逆になった。

- ① 衿腰線は、頸との空間を見ながら高さを決める。
- ② 衿外まわり線は、外まわりに合わせながら長さを決める。
- ③ 衿つけ線が一番最後で、衿のアウトラインをすっかり決定したあとで、衿を固定する。

以上のようにして身頃の衿つけ線にピンで止めてゆきできあがる。最終段階でやっと決定する筈の衿つけ線を、最初からピン止めしては、衿の微妙なカーブを作り出すことは、やはりできないように思う。この衿づくりの手順をまとめてみると次の通りである。

- ① 身頃の衿ぐり線の標入れの上に、衿布として用意したトワルをあてる。
- ② 求めるデザインに合わせながら、衿腰線を出して様子を見る。左手の人さし指を頸と衿の間に入れて、ゆとり量を見る。
- ③ 衿の前中心に虫ピンで衿を仮にとめておき、衿腰が変化しないように衿の外まわりを折って見る。
- ④ 前衿が大体できてから背の衿を作る。背中心で衿腰の角度が下がる場合もあるので、衿の外まわり寸法の不足を補う。
- ⑤ 衿腰を平たくしたい場合は、衿の外まわりを長くする。
- ⑥ 背の衿を作ってピンで止めてから、もう一度前衿を観察する。
- ⑦ 前中心の衿つけ線の際をピンでとめておき、切込みの入った縫代を切揃える。
- ⑧ 衿をもう一度でき上り状態にして観察する。
- ⑨ 衿腰線の前側がふくれて見えたら修正する。
- ⑩ 衿腰のふくらみを直したい時は、衿つけ線の縫い目を引き込む。
- ⑪ 求める衿ができる。

製図でつくりえない立体裁断は、常にビジョンを持たないと作れない。

このようにして何回も何回も立体裁断で衿づくりをして見たが、なかなか同じようにはできない。そこで、指導に便利のように、今まで衿づくりをしてきた大体の寸法を参考にして、衿のパターンを作ってみた。まず「衿幅」「衿腰」を決めて衿のパターンをつくるには、肩先(S・P)を何cm重ねたらよいか、衿のくり方はどうすればよいか、また前衿の開きは何cmぐらいがよいか、数回実習して次のようなパターンができた。

ドレス・スローバーをそのまま衿つけ線として使用する場合と、身頃の衿つけ線を修正する場合がある。後身頃はN・Pで0.5cm、前のN・Pで0.5cm、前中心で0.3cmけずり両者を自然と結ぶ。身頃の衿つけ線を修正して、衿のおさまりをよくした。

スタンダップ・カラーのパターンは（図6）ふつう①のストレートのもの、②のコンベックス状のものがあるが、①のストレートな衿は、首から離れて立った衿となり、②のパターンは次第に細くなる首にそのようなできりになる。③のコンケーブ状のものは、きわめてまれにしか使用されない。また①のストレートのものは、④のように折り返して二重にし、地の目を斜めにする場合もある。このパターンの仕上りは、立った衿がやわらかく首よりにくぼむところに特徴があり、タートルネックと呼ばれている。

スタンダップ・カラーの製図（コンベックス状 図6 ②）

- ア) B・N+F・N①②を引く。後中心で直角に衿巾4cmとる。
- イ) ①②に直角に③④を引き、②より1.5cm上の点をN・Pと結ぶ。
- ウ) イ)で引いた線の間で、0.4cmのふくらみをつけ曲線をかく。N・PからF・Nを通って前中心⑤を決め、衿つけ線を決める。
- エ) ③④の線上の③より5cmの点から「直角に1.8cmの点⑥をとり、⑤と結ぶ」
- オ) 衿まわりはつけ線に平行にかき、前衿つけ線では0.4cmの丸みをつける。

スタンダップ・カラーの応用製図（図7 ⑤）
シャツ・カラー

構造的な特徴は、スタンダップ・カラーを台衿（衿腰）とし、その上に折り返る部分をつけた衿となる。台衿が前寄りで低くなり、自然に落ち着く形のとときには、折り返る部分と台衿とは、パターンの上では余り開かない。折り返り部分の衿先の形は、任意に決定してよい。

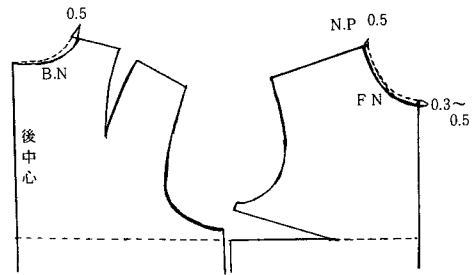


図5 スタンダップ・カラーの衿つけ線

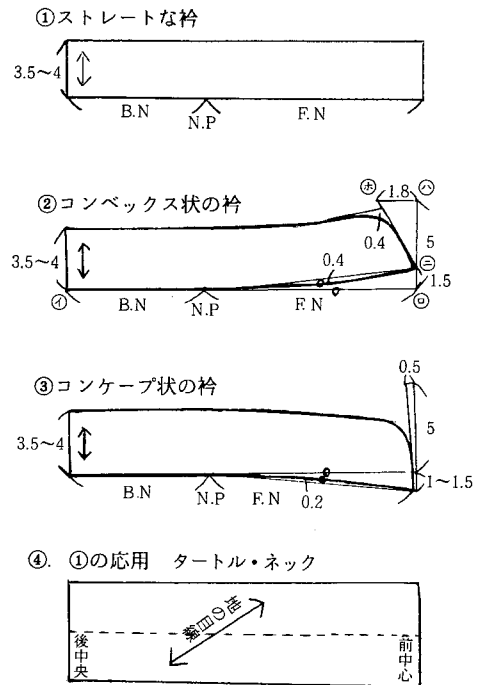


図6 スタンダップ・カラーのパターン

⑤ シャツ・カラー

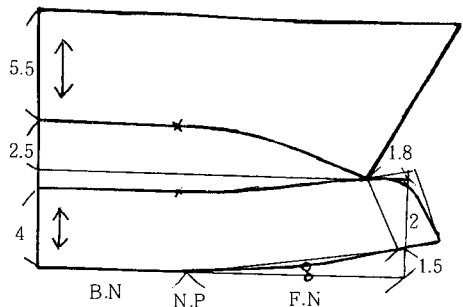
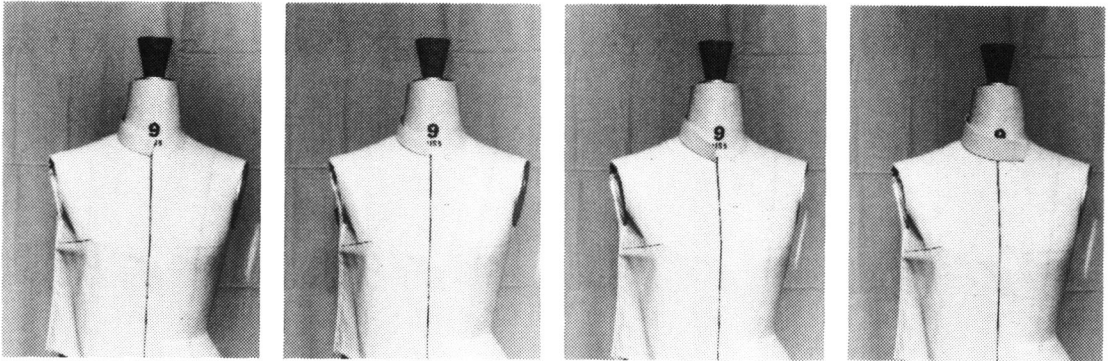


図7 スタンダップ・カラーの応用製図

下の写真1は、スタンダップ・カラーの実習例

写真1



ストレートのもの

コンベックス状のもの

コンケーブ状のもの

①の応用 タートルネック

〔イ〕 フラット・フィッティング・カラー

台衿（衿腰）がなく、折り返って身体にぴったりついている。俗にフラット・カラーと呼ばれている。形により次のように細かく分けられる。

- ① ピーターパン・カラー ② セーラー・カラー
- ③ ラウンド・パーサ・カラー ④ スクエア・パーサ・カラー

フラット・フィッティング・カラーのパターンは、前身頃・後身頃の图案の肩巾を突き合わせ、肩先（S・P）を重ねた上でつくる。肩先の重ね方は、「衿幅」「衿腰」が関係する。衿幅がせまいほど肩先の重ね幅は大きく、衿幅が広いほど肩先の重ね幅は少なくなってくる。フラット・フィッティング・カラーは衿腰が低いので、0～2cmぐらいである。（図8）

フラット・フィッティング・カラーの製図（図8）

- ① 前身頃、後身頃のN・Pを突き合わせにして、肩先を重ねる。
重ね幅は、衿幅、衿腰によって変わるが、0～2cmである。
- ② 衿幅をきめて、衿の外まわり線をかく。N・Pで0.5cm出して衿腰をつける場合もある。衿の前開きは、3cm+1～2cmである。（9・10図）

下の写真2はフラット・フィッティング・カラーの実習例である。

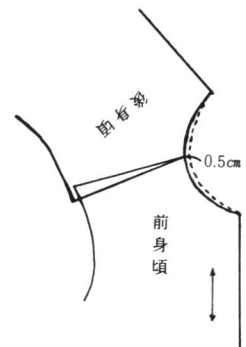


図8 フラット・フィッティング・カラーの肩先の重ね方

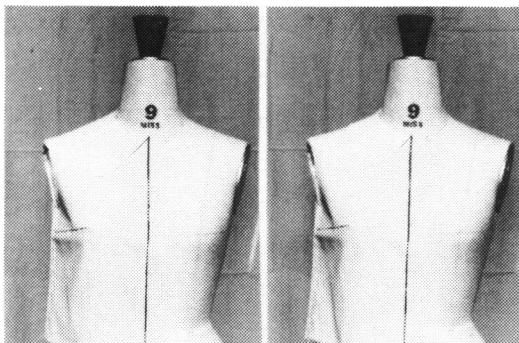
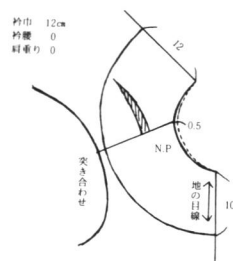
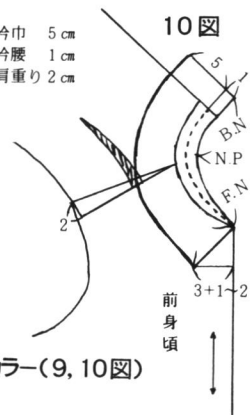


写真2 フラット・フィッティング・カラーの実習例

9図



10図
衿巾 5cm
衿腰 1cm
肩重り 2cm



フラット・フィッティング・カラー(9, 10図)

フラット・フィッティング・カラー (図11) ロールド・カラーの肩の重ね方図 (図12) の前身頃、後身頃の肩の重ね方図である。

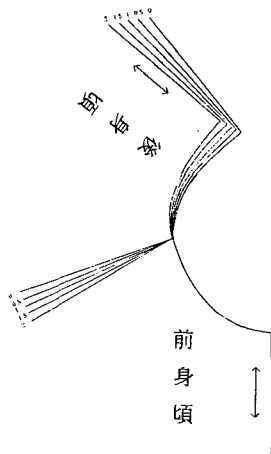


図11 フラット・フィッティング・カラーの肩の重ね方

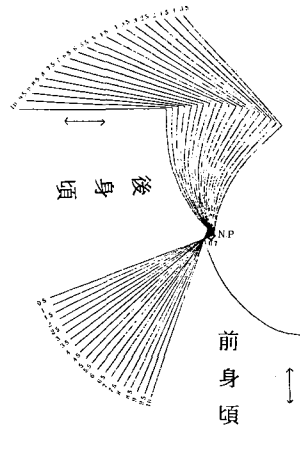


図12 ロールド・カラーの肩の重ね方

〔ウ〕 ロールド・カラー (図13)

フラット・フィッティング・カラーに衿腰をつけて折り返りをつけた衿がロールド・カラーである。

ロールド・カラーの製図も、フラット・フィッティング・カラーと同様に、肩先を重ねる方法である。フラット・フィッティング・カラーと異なるのは、N・Pで後衿ぐりを「0.7cm」ずらして製図する。肩先の重りは、衿腰が高く、衿幅がせまくなれば多くする。

12図は、ロールド・カラーを製図する時、能率をあげるために肩の重りを表にした。

ロールド・カラーの製図 (図14)

- ① 前身頃、後身頃のN・Pを「0.7cm」ずらして型紙を置く。(肩の重りの表をうつしておく)
- ② 衿幅5cm、衿腰3cmの衿のパターンを作るのに、10回ぐらい実習した結果、肩先を5cm重ねたら良いことがわかった。
- ③ 後衿ぐりの背中心より、衿腰の2倍のしるしをつけ、背中心に直角に線を引く。
- ④ 前衿ぐりより、前衿ぐり寸法をとり、その中心を1cmくる。
- ⑤ 後衿ぐり寸法から0.5cm引いた寸法をしるし、直角にする。
- ⑥ 衿の折り線を引いて中心をくる。
- ⑦ 衿の折り線から5cmの衿幅線をかく。前衿先線は、前中心より3cm+1~2cm開いて線を引く。

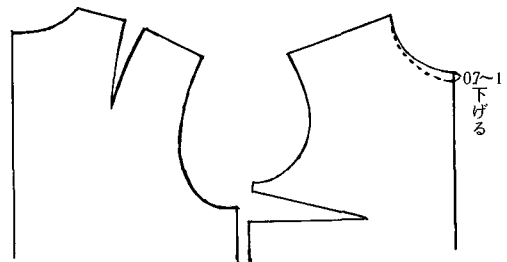


図13 ロールド・カラーの衿ぐり

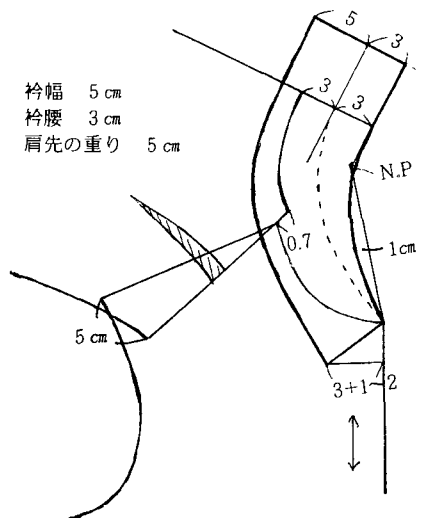


図14 ロールド・カラーのパターン

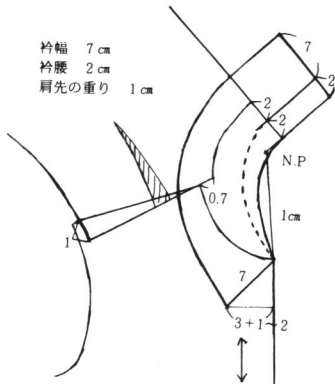


図15 ロールド・カラーのパターン

図15図は、衿腰2cm、衿幅7cmにすると、肩の重りは1cmでよく、衿の形も、フラット・フィッティング・カラーに似てくる。

写真3は、14図と15図を写したものである。

写真4は、衿幅、衿腰、肩の重りが悪く、肩山に少ししわの出たものと、衿外まわりがゆるんでいるものである。

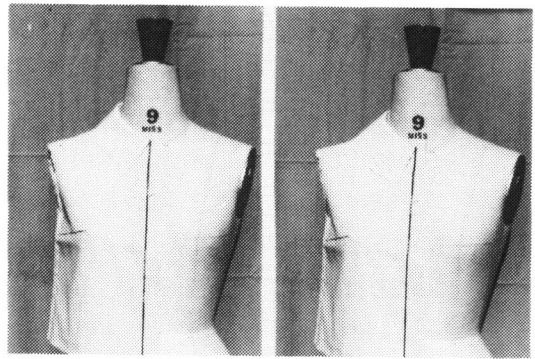


写真3 ロールド・カラーの実習例

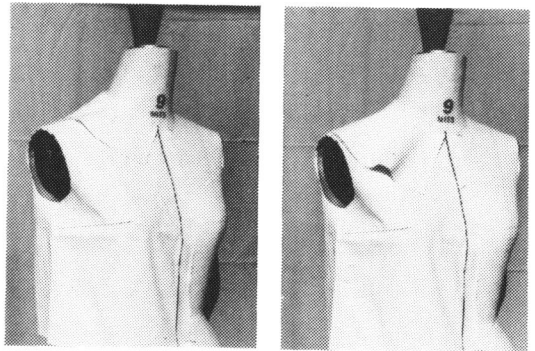


写真4 フラット・フィッティング・カラーの悪い例

Ⅲ ま と め

以上立体裁断実習から製図法へと展開した衿のスタンダップ・カラー、フラット・フィッティング・カラー、ロールド・カラーのパターンづくりの結果を検討考察してみると、

- (1) スタンダップ・カラーでは、トワルの裏に接着芯をはったのが良かったと思う。前中心の衿型が直角より鋭角になるのが、前の首にそって良いと思う。(図16)

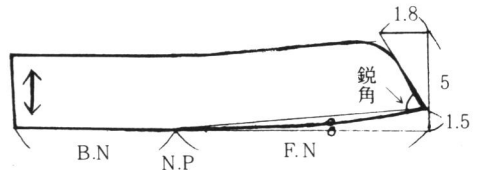


図16 スタンダップ・カラーの前衿の角度

- (2) フラット・フィッティング・カラーでは、衿腰を0にして衿のパターンをつくった場合、衿幅4cmも、12cmも、肩の重りは0で変化はない。衿腰を0.5cmにして衿幅4cmの場合、肩の重りは1.5cmであるが、衿幅が広くなるに従い0になる。衿腰が1cmで衿幅4cmの場合、肩の重りは2cmになるが、衿幅が8cmになると、肩の重りは0になる。衿幅が同寸法でも、衿腰が高くなると、肩の重りは多くなる。衿腰が同寸法でも、

表2 衿幅・衿腰と肩重りの関係

		衿巾										衿腰が0のときは変化なし
		衿腰	4 cm	5 cm	6 cm	7 cm	8 cm	9 cm	10cm	11cm	12cm	
フライングカラー フラットフィット		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0.5cm	1.5	1	0.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	
		1 cm	2	2	1	1	0	0	-	-	-	
ロールドカラー		1.5cm	2.5	2.5	2	1	-	-	-	-	-	
		2 cm	3.5	3.5	2.5	1	-	-	-	-	-	
		2.5cm	5	4	3	-	-	-	-	-	-	
		3 cm	7	5	-	-	-	-	-	-	-	
		3.5cm	9	6	-	-	-	-	-	-	-	

衿幅が広がると、肩の重りは少くなる。右の表は、フラット・フィッティング・カラーとロール・カラーの実習を10数回おこない、衿幅、衿腰、肩の重りの関係を表にしたものである。

- (3) ロールド・カラーは衿腰1.5cmから3.5cmまでを実習した結果である。衿腰を1.5cmにして、衿幅4cmの場合、肩の重りは2.5cmになる。衿幅7cmにすると、肩の重りは1cmでよい。衿腰を2.5cmにして衿腰4cmの場合、肩の重りは5cmになり、衿幅6cmにすると、肩の重りは3cmでよい。衿腰を3.5cmにして衿幅4cmの場合、肩の重りは9cmになり、衿幅5cmにすると、肩の重りは6cmになる。衿幅が1cm広がると、肩の重りは3cmも少くてよいことがわかった。

表2は、衿幅、衿腰、肩の重りの表であり、10数回実習をして、適当と思われる衿のみ表にしたものである。悪い例は、衿腰が高く、衿幅が広いと、肩の部分に大きなしわが出て、衿の外廻りがつれる。また反対に衿腰が低すぎると、衿の外廻りがゆるく波うつようになる。（写真4）

表3 衿幅・衿腰寸法と前面衿先の開き寸法表

衿腰 衿幅	0	衿腰									
		4 cm	5 cm	6 cm	7 cm	8 cm	9 cm	10cm	11cm	12cm	
フ ラ ッ ト フ ィ ッ テ ィ ン グ カ ラ ー	0	4.2	4.8	4.6		7		8.6		10.5	
	0.5cm	3.6	3.8	3.8	4.2	4.3	4.3	4.6	5.3		
	1 cm	4	4	4.6	4.8	5.4	5.3				
	1.5cm	3.8	4.1	5	5.2	6.1					
	2 cm	4.2	4.8	5	5.3						
ロ ー ル ド カ ラ ー	2.5cm	4	4.3	5.2							
	3 cm	3.6	4								
	3.5cm	3.7	4.5								

- (4) 前身頃の衿先の開きについて、フラット・フィッティング・カラーとロール・カラーについて測定したところ右表3のようになった。今回は衿幅寸法が異なる衿の、衿先の開きを3cmにしたので数値は確実でない、今後の研究課題にしたいと思う。

本研究にあたり、衿のパターンを衿幅、衿腰、肩先の重ね方についてご指導をいただいた三菱レーヨン顧問デザイナー安藤武男先生、倉敷編物専門学校・YTP専門学校長高谷芳子先生に厚く感謝します。

参 考 文 献

- 1) 安藤武男 プロのためのカッティング・システム モード・エ・モード社
- 2) 近藤れん子 近藤れん子の立体裁断と基礎知識 モード・エ・モード社
- 3) 今井和子, 清沢昌子, 小林穂子 衿作図法に関する一考察（第1報） 家政学雑誌
- 4) 石毛ふみ子, 森谷多恵子 ローリング・カラーに関する研究（第2報）
- 5) 大橋登史子, 入江信子, 林 佳子 被服構成（洋裁）とゆるみ 上身頃・スカート
中国短期大学紀要 第9号
- 6) 三田利子, 大橋登史子, 入江信子, 林 佳子 袖のパターンに関する一考察
中国短期大学紀要 第10号
- 7) 高谷芳子, 蕪木遥子, 垣谷セツ, 大橋登史子 白神 香. YTPシステム・テキスト4
YTP服飾研究会